

# 令和4年度 山口県学力定着状況確認問題の結果について 【小学校】

下松市教育委員会

## 1 結果の公表 にあたって

令和4年度「山口県学力定着状況確認問題」は、児童生徒の学力の状況や生活習慣、学習環境の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。また、今年度は、初めてタブレットを使用しでの実施となりました。

今回の結果をもとにして、本市におきましても、引き続き、学校と家庭・地域が連携・協働し一体となった取組を推進してまいりますので、御協力をお願いします。

### ○ 実施期日

- ・令和4年10月17日（月）～10月21日（金）小学校6年、中学校2年
- ・令和4年10月24日（月）～10月28日（金）小学校5年、中学校1年

### ○ 実施内容

小学校5、6年生 国語、算数

中学校1、2年生 国語、数学（※中学校2年生は英語も実施）



## 2 教科に関する 問題の結果について

【国語】 5年生・6年生ともに県平均正答率を上回っている。

【算数】 5年生は県平均正答率を上回っているが、6年生はわずかに下回っている。

→ 5、6年生ともに、全ての教科において、記述式問題（考えを書く、理由や方法を説明する等）の正答率に課題が見られます。自分が考えたことを言語化して表現する力を育てることで、思考力や判断力をさらに伸ばすことができると考えます。算数においては、基礎的な学習内容を確実に定着させる必要があります。

### ◎（市平均正答率の高かった問題）

### ▲（市平均正答率の低かった問題）

- ◎ 漢字を正しく読んだり書いたりすること（5年）
- ◎ 文章全体の構成を捉え、要旨を把握すること（6年）
- ◎ 文の中における主語、述語をとらえること（5年、6年）
- ▲ 自分の立場や意図を明確にし、メモをもとに自分の考えをまとめること（5年）
- ▲ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること（6年）



国語

- ◎ 折れ線グラフのめもりを正しく読むこと（5年）
- ◎ 2桁×1桁の計算をすること（6年）
- ◎ 分数の除法の計算をすること（6年）
- ▲ 整数－小数の計算をすること（5年）
- ▲ 比較量と基準量を使って、割合を求める式を立てること（5年）
- ▲ 整数÷小数の計算をし、あまりを正しく求めること（5・6年）
- ▲ 比較量が表す意味を理解すること（6年）



算数

3 課題の見られた問題例

国語 自分の立場や意図を明確にし、メモをもとに自分の考えをまとめる問題 【5年】

2 (5) 田中さんは、次の話合いに向けて、木下さんの〈メモ〉をもとに、サツマイモか白オクラのどちらかを選び、自分の考えを書くことにしました。あなたが田中さんなら、どのように書きますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- サツマイモか白オクラのどちらかを選び、〈メモ〉にある問題点についての解決方法を考えて書くこと。
- 解決方法は、自分たちにできることを考えて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、30字以上、50字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にふくまない。

サツマイモをさいばいするのがよいと思います。草ぬきなどの世話が大変という問題については、

白オクラをさいばいするのがよいと思います。さいばいがむずかしいという問題については、

※ 県平均正答率と同程度で、40%台の正答率でした。

算数 比較量が表す意味を理解する問題 【6年】

4 A店とB店が、それぞれ次のような安売りの広告を出しています。ふみかさんとゆうきさんは、1200円のシャツを買うときに、どちらのお店が安くなるかを話し合っています。あとの(1)から(2)の問題に答えましょう。

A店の広告 全品400円引き!

B店の広告 全品30%引き!

A店の代金を調べるために、ふみかさんは次のように計算をしました。

$$A店 \quad 1200 - 400 = 800$$

ふみかさん「A店では800円でシャツを買うことができるね。」

ゆうきさん「B店はどのような計算で求めることができるのかな。」

B店の代金を求めるために、ゆうきさんは次のように計算をしました。

$$B店 \quad 1200 \times 0.3 = 360$$

ゆうきさん「360円…なんだか安すぎる気がするな…」

(1) B店のシャツの代金は360円ではありません。360円は何を表しているのか、次の中から1つ選びましょう。

- 1200円から30%増加した金額
- 1200円から30%引きした金額
- 1200円の30%の金額
- 1200円の0.3%の金額

※ 県平均正答率を下回り、30%台の正答率でした。

4 今後の取組

★ 学 校

● 学校の組織的取組の強化

(教科・学年の枠を超えた研修の推進、学力向上プランの重点化等)

● 児童生徒の「学習力」の向上をめざす授業改善

(「キラリくだまつ授業づくり」の活用、誤答分析を生かした授業改善等)

● 校内研修の活性化と指導の充実

(「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善、「やまぐち学習支援プログラム」の活用、個に応じた補充学習等)

★ 家庭・地域

● 学習・生活習慣の確立

(「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)

● コミュニティ・スクール、やまぐち型地域連携教育の仕組みを生かした学習支援

(地域の人材を活用した授業や取組等)

★ 下松市教育委員会

● 「キラリくだまつ授業づくり」に基づいた授業改善の推進

● 授業における「振り返り」活動の推進

● 課題と考えられる状況等の情報提供

● 学校訪問等による指導・助言

● 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりに関する指導・助言

● 下松市学習指導実践研究校の指定